

令和4（2022）年2月10日

尾道福祉専門学校
校長 邑岡 志保 様

学校関係者評価委員会
委員長 平石 朗

学校関係者評価委員会報告

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

所 属	職 名	氏 名
株式会社リクルート	ビジネスプロデューサー	加藤 茂博
社会福祉法人蓬愛会 栃木介護福祉士専門学校	教務課長	武藤 清子
尾道市福祉保健部 高齢者福祉課	課 長	水田 章治
全国老人福祉施設協議会	会 長	平石 朗
尾道福祉専門学校	校 長	邑岡 志保
尾道福祉専門学校	教務主任	金子 清美
尾道福祉専門学校	教 員	重岡 秀和

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和4（2023）年2月10日（金）14：00～16：00

会場：尾道さつき会会議室ハイブリッド型オンライン会議

3 学校関係者評価委員会

別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標（1）について

「体験して学ぶ」を現場と学校の行き来を増やして進めていく。社会福祉法人が運営する学校の特徴を明確にして、ブランディングに取り組む。学校での学びを介護現場で体験する機会を確保する。この動きを進めていくことを期待したい。

2 重点目標（2）について

学校の特色や介護の魅力を伝えるための学校パンフレットや体験入学の工夫、また、奨学金制度や学生の生活支援など、入学生の確保につなげてほしい。
職業実践専門課程校及び専門実践教育訓練講座の指定校、高等教育の就学支援新制度について広く関係者に周知を続けてほしい。

その他

介護福祉士実務者研修、喀痰吸引研修等の実施で、施設介護職員の育成のために継続できるよう学校の努力を期待したい。

II 各評価項目について

1 教育理念

今後も、学校の理念・目的・育成人材等について、学生自身や保護者、法人の職員、地域の人に伝える機会をつくっていく工夫を続けていく必要があると思われる。

2 学校運営

学生募集について、厳しい状況である。運営方針、事業計画について、中長期的な目標設定が必要と考える。法人全体や関連分野、また自治体との連携をもって、学校の一層の努力を期待したい。

3 教育活動

オンライン授業と対面授業を組み合わせ、最新の介護動向等、関東関西在住の講師の講義を行ったり、「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま」認証制度の推進と実習指導の説明を35施設の事業所から学ぶ機会を得た。今後もオンライン活用で授業の幅を広げていき機会を考えていく。学生のニーズに対応した学習内容の工夫や介護の魅力を伝える教育に期待したい。

4 学修成果

細やかな対応を行いつつ、退学防止対策について広く知識や情報を集める等、退学者、休学者の低減を図ることが課題である。個別対応や学び合いの中から、個人の成長を促す機会を工夫していくことから、退学者や休学者の低減を図ってほしい。入学試験で入学生の学力や人柄などをどの程度把握する必要があるのか、予見できない部分があるが、本人の目的意識を確認しつつ入学後の成長を期待する。

5 学生支援

保護者と協力して学生の生活全般を見守り、また学生の状況に応じた個別対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていくことも必要である。学生や保護者、学校が、早期から情報交換し、協力体制を整えていくことや、学力や生活力に課題をもつ学生、発達障害や精神障害のハンディをもつ学生に対して、個別指導、保護者面接で引き続き、支援が必要である。

6 教育環境

施設整備については、介護実習室の拡張のため古い備え付け実習用トイレや台所等の設備を廃止したことで、広く動きやすい環境を整えた。また、隣り合った 203.204 教室の壁撤去工事を行って教室拡張を行った。次年度はトイレの改修を予定する。引き続き教育環境の整備に期待する。

7 学生募集と受け入れ

時代と共に高校生の関心事、目にするツール等は変化するため、そこに焦点を当てた広報を実施しなければならないと考える。また、世間一般にある介護のイメージより更にポジティブなイメージを高校生へ情報提供していく必要がある。他校の外国人の入学をすすめる動きなど状況の把握に努め、効果的な広報活動に取り組み、1 人でも多くの学生が入学することを期待したい。

8 財務

2021 年度の入学者数から財務状況は上向きとなったが、一方で、年度途中の退学者もあり、財務状況は今後も楽観できない。介護職のイメージアップを図りながら、現役高校生の入学者を獲得するための努力がさらに必要である。

9 法令等の遵守

法令、専修学校設置基準の遵守及び個人情報保護の対策について、引き続きコンプライアンスの意識をもって取り組むことに期待したい。

10 社会貢献・地域貢献

コロナ禍においても学校の資源活用や施設の地域貢献について、その在り方を模索

していく。そのためにも、地域にある団体や組織と関係性を強めて地域のニーズに応える準備を行う必要がある。尾道市及び周辺地域での社会貢献活動や地域貢献活動の機会を通して介護職のイメージアップを図り、学生募集につながるように、積極的な地域行事への参加を継続して行くことに期待したい。

Ⅲ まとめ

本校が社会資源として、尾道市の中で活用が図られることを期待する。行政と学校との体系化した関わりが現場支援につながると思われる。「体験して学ぶ」特徴の明確化とブランディング、介護職員が学ぶ研修センターの構築、地域住民との共存の場等、専門学校内で考えていくだけでなく、連携し協働して進めていく。